

# 松本清張記念館

◆館報◆  
2010.3  
第33号



100万人目の入館者と記念撮影する柏木教育長(左端)、北橋市長と小野生誕100年記念事業実行委員会会長(右端)(詳しくは7頁)

## 生誕100年に 入館100万人達成!

### 目次

- 松本清張生誕一〇〇年記念  
《東京》講演会……………2
- 「日本の黒い霧」  
《東京》上映と講演の夕べ……………3
- 企画展紹介「神々の乱心」……………4
- 「松本清張研究」第11号発刊……………5
- 「展示品紹介」……………5
- 松本清張研究会第21回研究発表会……………6
- 友の会活動報告……………7
- 生誕一〇〇年記念事業……………7
- トピックス……………8

松本清張生誕一〇〇年記念

# 《東京》講演会

一月二十九日（金）、五木寛之さん、阿刀田高さんをお招きして、松本清張生誕一〇〇年を記念した《東京》講演会を開催しました。

この講演会は、株式会社文藝春秋の協賛により実現したもので、聴講者は全国の約二千名の中から抽選された六百名でした。

第一部は、阿刀田さんが「松本清張を推理する」と題し、清張の作品に対する考え方を様々な角度から推理し、ユーモアを交えながら話されました。「我々大衆がおもしろいと思うこ

平成二十二年一月二十九日（金）  
東京有楽町朝日ホール

第一部 阿刀田高

「松本清張を推理する」

第二部 五木寛之

「清張文学の視線」

とを書こうというスタンスを持ち続けた、すばらしい作家であった」としめくくりました。

第二部は、五木さんが「清張文学の視線」というテーマで、清張が描いてきた作品を鋭く分析しつつ、実際に清張と会った際のエピソードなどを織り交ぜながら講演されました。

「今の動機なき殺人の時代に、清張さんが生きていたら、苦心なさるのかもしれない。果たして今の推理小説は応え得るのか疑問だ」と投げかけました。

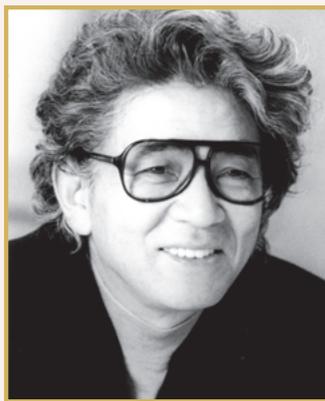
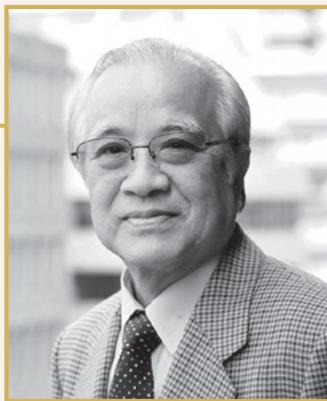


## あとうだたかし 阿刀田 高

1935年、東京に生まれる。早稲田大学文学部仏文科卒業後、一時国立国会図書館に勤務。その後軽妙なコラムニストとして活躍し、1970年代から“奇妙な味”の短篇小说を書き始める。1979年、『来訪者』で日本推理作家協会賞を、『ナポレオン狂』で直木賞を受賞。

丹念な作品作りで知られる短篇作家だが、『朱い旅』『怪談』など長篇にも意欲を示し『獅子王アレクサンドロス』などヨーロッパ古代史を題材とした歴史小説にも筆をふるっている。『ギリシア神話を知っていますか』などの教養シリーズも読者に親しまれている。1995年、『新トロイア物語』で吉川英治文学賞受賞。

2007年より日本ペンクラブ会長。2009年、旭日中綬章を受賞。現在、直木賞、新田次郎文学賞、小説すばる新人賞、小説現代ショートショート・コンテストなどの選考委員をつとめている。近著に『佐保姫伝説』（文藝春秋）『街のアラバスク』（新潮社）などがある。（平成22年1月29日現在）



## いつき ひろゆき 五木 寛之

1932年、福岡県に生まれる。戦後、北朝鮮より引揚げ。早稲田大学文学部ロシア文学科中退。1966年、『さらばモスクワ愚連隊』で小説現代新人賞、1967年、『蒼ざめた馬を見よ』で直木賞受賞。1976年、『青春の門』で吉川英治文学賞をうける。代表作は『朱鷺の墓』『戒厳令の夜』『蓮如』『大河の一滴』『21世紀仏教への旅』。

翻訳にチェーホフ『犬を連れた貴婦人』リチャード・バック『かもめのジョナサン』ブルック・ニューマン『リトルターン』などがある。

第一エッセイ集『風に吹かれて』は刊行40年をへて、現在総部数約460万部に達するロングセラーとなっている。

ニューヨークで発売された、英文版『TARIKI』は大きな反響を呼び、2001年度『BOOK OF THE YEAR』（スピリチュアル部門）に選ばれた。また2002年度菊池寛賞を受賞。

1981年より休筆。京都の龍谷大学において仏教史を学ぶが、1985年より執筆を再開し、現在直木賞、泉鏡花文学賞、吉川英治文学賞その他多くの選考委員をつとめる。最新作に『人間の運命』（東京書籍）がある。（平成22年1月29日現在）

松本清張生誕一〇〇年記念  
松本清張記念館オリジナル映像

「日本の黒い霧—遙かな照射」  
《東京》上映と講演の夕べ

平成二十二年二月二十六日(金)  
東京新宿明治安田生命ホール

上映 記念館オリジナル映像  
「日本の黒い霧—遙かな照射」  
講演 佐野眞一  
「戦後史の闇をこじ開ける」



二月二十六日(金)、記念館オリジナル映像「日本の黒い霧—遙かな照射」の上映と佐野眞一さんの講演を、株式会社文藝春秋の協賛により、東京新宿で開催しました。  
「日本の黒い霧」は、清張が探究心と情熱を注いだ、現代史の代表作です。  
さらに、占領下の小倉で発生した黒人兵集団脱走を扱っ

た「黒地の絵」を加え、貴重な資料フィルムや写真などで構成する「日本の黒い霧—遙かな照射」は、これまで記念館内でのみの上映でした。今回、清張生誕一〇〇年を記念して、初めて東京で上映しました。  
休憩をはさんで、佐野眞一さんが「戦後史の闇をこじ開ける」というテーマで講演されました。



希銀事件



松本清張生誕100年記念  
松本清張記念館オリジナル映像  
日本の黒い霧—遙かな照射  
《東京》上映と講演の夕べ

■上映 オリジナル映像「日本の黒い霧—遙かな照射」(18:00~18:30)  
■講演 佐野眞一「戦後史の闇をこじ開ける」(18:30~20:30)

2010年2月26日(金) 17:30開場  
18:00開演  
景新宿明治安田生命ホール  
入場無料 抽選で300名様をご招待



さの しんいち  
佐野 眞一

1947(昭和22)年、東京に生まれる。早稲田大学文学部卒業後、出版社勤務を経てノンフィクション作家に。「戦後」と「現代」を映し出す意欲的なテーマに挑み続けている。97年、「旅する巨人 宮本常一と渋沢敬三」で第28回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。著書に「巨怪伝」「カリスマ」「東電OL殺人事件」「枢密院議長の日記」などがある。昨年、『甘粕正彦 乱心の曠野』で第31回講談社ノンフィクション賞を受賞。また、東京新聞で「編集者の見た松本清張」を連載した。  
(平成22年2月26日現在)

松本清張生誕100年記念特別企画展

松本清張 最後の小説

# 神々の乱心

— 乱心の〈神々〉はどちらにつくのか —

## 企画展延長

松本清張生誕100年記念特別企画展「神々の乱心」を、好評につき

**8月31日(火)**まで延長開催いたします。

「神々の乱心」は、時代背景・作品の舞台、画策する野望の遠大さ、底流にある宮中・宗教というテーマ、さらに清張自身のこの作品に対する想いなど、あらゆる角度からスケールの大きさが感じられる作品です。

コーナー毎にみどころをお伝えします。



## I 「神々の乱心」の世界

「神々の乱心」ははからずも清張の絶筆となった作品です。張り巡らされ輻輳する、古代史、現代史、宗教という複数にわたるテーマが、物語に彩りと深みを加えています。作品のリアリティを支える背景をご紹介します。



多鈕細文鏡 他 ▶

## II 播種——『昭和史発掘』から

ここでは、『昭和史発掘』からの系譜をご紹介します。ノンフィクションである『昭和史発掘』では深くは触れられなかった四十年越しのテーマが、フィクションの「神々の乱心」では、自由に鮮やかに描かれています。

「神々」にはモデルのある人物や事件が多数登場し生き生きとした物語になっていますが、長く温められていたゆえの深みもあるのでしょう。



「昭和史発掘」直筆原稿 ▶

## III 開花——昭和の終わるころ

清張は執筆前、三冊にわたる創作ノートをつくりました。取材班が集めた膨大な資料を読み込み、構想を練り、考えをまとめた一年半にわたる思索の経緯が伺えます。あまり詳細なノートを作らなかった清張ゆえに、創作過程が垣間見えることに貴重な資料です。



教団名を考えると  
ところからノートは始  
まっている ▶

## IV 絶筆——「本当に瑞々しい作品は」

〈本当に瑞々しい作品は、若い頃には書けないものだ〉——清張自身が遺したこの言葉の通り、「最後の大作」らしいスケールを持ちつつ、活き活きとした文章は、読者を終章まで惹きつけます。自ら筆を取った題字の墨痕、最後まで推敲を重ねた筆跡……作品に妥協を許さなかった作家の息づかいをご覧ください。

机上に残された連載の綴じ込み。清張自身が細かく赤鉛筆を入れている。 ▶



# 研究誌『松本清張研究』第十一号発刊



特集のテーマは「**神々の乱心**」です。考古学から現代史まで豊富な蓄積を駆使して構成された大作——清張の問題意識が凝縮されているこの作品に、各分野の専門家がそれぞれの切り口で挑んだ論文で、新たな魅力をお伝えします。魅力溢れる多彩なエッセイもご期待ください。

## 特集

### 特別対談

『**神々の乱心**』の背景——未完の遺作を解説する  
宗教と宮中  
**二大聖域に迫る渾身の遺作を読む**

原 武史、福田和也、藤井康栄（特別参加）

### 論文

- 『天皇制』の歴史的深層へ……………小森陽一
- 『神々の乱心』と大本教……………井上順孝
- 異形の神政——昭和十一年、島津治子元女官長事件……………能澤壽彦
- 松本清張の新興宗教観——邪教と反逆と天皇制……………綾目広治
- 『神々の乱心』と「奥」の世界……………小田部雄次
- 『神々の乱心』と満蒙阿片……………西木正明
- 『神々の乱心』にみる考古学と食文化……………森 浩一
- 『神々の乱心』創作ノートが物語ること……………
- 私のなかの松本清張……………

## 特集

### エッセイ

- 「史疑」の絆……………上田正昭
- 額に入れた帯文……………林真理子
- 『火の路』……………松岡正剛
- 電車のなかの「偶然の一瞬」……………酒井順子
- 和歌への心寄せ……………栗木京子
- Mさんのこと……………梯久美子
- 『黒い空』の謎……………千街晶之
- 私の『点と線』……………宇田川清江
- あなたは「わるいやつら」を二度読む……………牧村一人
- 『黒い福音』を読み解く……………佐藤 優
- 記念館研究ノート……………
- 「或る『小倉日記』伝」——その底流にあるもの……………柳原暁子
- 『点と線』新潮文庫と文春文庫……………西本 衛

\*バックナンバーは好評発売中です。通信販売をしていますので、記念館にお問い合わせ下さい。

## 展示品紹介

# 矢戸の風景画

松本清張の描いた画は記念館に数点所蔵しているが、この風景画には、他のスケッチと少し違う特別な意味がある。画が見つかったのは、作家の没後だった。ひっそり、誰にも知られず書斎にしまわれていた。風景画は五枚、清張の父・峯太郎の故郷、矢戸（現・鳥取県日南町）の雪景色が描かれている。いずれも15×20センチ程度の小さい画だ。この山村の情景は、清張のエッセイや、形を変えて小説にもしばしば描かれた。

私は幼いころから何度も父から矢戸の話が聞かされた。矢戸は生れた在所の名である。父の腕を手にして、私は話を聞いたものであった。

「矢戸はのう、ええ所ぞ、日野川が流れとつてのう、川上から砂鉄が出る。大倉山、船通山、鬼林山などという高い山がぐるりにある。船通山の頂上には根まわり五間もある大けな榎の木が立つとつてのう、二千年からの古い木じゃ。冬は雪が深い。家の軒端までつもる」

その話を聞くごとに、私は日野川の流れや、大倉山の山容や、船通



山の巨大な榎の木の格好を眼の前に勝手に描いたものであった。その想像のたのしみから、同じ話を何度も聞かされても、飽きはしなかった。

父の影響から矢戸への憧憬を膨らませ、清張にとつても幼少の頃からルーツ故郷として意識されていた土地だった。しかし「父系の指」では、戦後に初めて訪れた念願の（帰郷）が、「私」の心象によつてたちまち色褪せた様子を描いている。

私は汽車でふたたび中国山脈を南に越えた。見ていると、単調な窓外の風景がまるで色彩がなかった。白い雪が軋んで感じられる。私の心は泥をなめたように、味気なかった。

五枚の風景画は、いつ描かれたものかはわからない。右の情景そのものを映しているようにも見えるし、もつと穏やかで美しいもののようにも見える。

後に「半生の記」で「父系の指」を「私小説らしいといえば、これが「ばん」それに近いが、私の父と田中家との関係をほとんど事実のままにこれに書いておいた」としているが、地名や経歴など「私」と清張は微妙にずらしてあり、自伝ではない。父への愛憎入り混じった思いが、作品となっている。

事実、清張は上京後にも東京の従兄妹と交流をもっており、作家となつてから機会があるごとに日南町を訪れている。昭和49年には文学碑も建てられ除幕式にも出席した。

昨年、日南町でも生誕100年を祝った。矢戸と清張の絆は、今も絶えてはいない。

（学芸員 柳原 暁子）

# 松本清張研究会 第21回研究発表会

日時：平成21年12月12日（土）午後2時

会場：松本清張記念館

## 第I部

記念館オリジナル映像

### 『日本の黒い霧』 —遙かな照射』上映

講演

### 『日本の黒い霧』 —清張ノンフィクションの はじめり』



講師 藤井 忠俊 氏  
現代史研究家  
『日本の黒い霧—遙かな照射』  
原作・脚本・監修

## 第II部

◎「日本の黒い霧」の前に「小説帝銀事件」を書かれて、「日本の黒い霧」のなかでもまた「帝銀事件の謎」を書いている。その中身の大きな違いはどこにあるか？（参加者の質問）

その点を私も話そうと思っておりましてので、ちょうど話が合いました。（笑）

「日本の黒い霧」が1960年、その前年に「小説帝銀事件」が書かれたのです。一年の間に連続して「帝銀事件」を書いている。小説とノンフィクション、構造上少しは違うが、よく見るとそんなに違いはない。なぜこういうことになったのか？

普通の常識的な疑問を追及できることは、非凡なこと

「小説帝銀事件」では、疑問がテーマだと言っている。《なぜ平沢が犯人になったのか？》清張さんの疑問は非常に常識的です。常識的な疑問を展開していく。そこに清張さんの良いところがある。実は、普通の疑問が追及できることは非凡なことなのです。

これを「小説帝銀事件」と「日本の黒い霧」の中の「帝銀事件の謎」に当てはめてみます。小説の方は、何から種を仕入れたか。検事の調書や判決書などの『裁判記録』です。これを読むと「やっぱりおかしい」。平凡に思っていた疑問がさらに深まり、「小説帝銀事件」を書いた。小説としては大成功、文藝春秋の読者賞をもらう。だから、何も次の年に「帝銀事件の謎」を書く必要はないわけです、小説家ならば。つまり、そのときから清張さんはもう一つ別に、ノンフィクションの道を歩き出したのです。

では、次のノンフィクションの「帝銀事件の謎」は何が違うのか。これは簡単です。警察の「捜査書類」をもってきたんです。刑事部長の指示を見ると、最初は医学、薬学の専門職の者が怪しいという、捜査方針です。それが段々と元の軍関係の方になり、平沢が逮捕される前あたりでは、もう731部隊関係者に絞っている。部長の石井中将からすでに聴取をし、「ど



うもこれは俺の部下の中にいるような気がする」という証言さえ得ている。

ところが、清張さんの疑問は、《そこまで追いつめていたのに、何で絵書きの平沢貞通になったのか？》ということなんです。私もそう思いますよ。単純な疑問だから、当時の新聞記事にもよく出ていた。そして、平沢はどんだん犯人に仕立て上げられて行く、それ自体がどうも変だと清張さんは思った。

大事なのは「疑問」《なぜ平沢なのか？》から《なぜ731部隊ではないのか？》

大事なのは、まず何といっても「疑問」ですよ。疑問は、どのようにテーマを選ぶかと同じことなのです。「帝銀事件」については、《なぜ平沢なのか？》が最初の小説のテーマで、《なぜ731部隊ではなかったのか？》が次のテーマです。清張さんはそのところはかなり苦労したと思います。

清張さんは当時、《731部隊の残党たちはGHGに雇われて研究をしているから、ばれると困るGHGが圧力をかけて、捜査をストップさせたんだ。》と解釈していました。これは、大筋ではいいんです。《GHGに雇われて》だけ私と違う。正確に言いますと、731部隊が行った細菌の研究で、アメリカが一番欲しいのは生体解剖のデータで、残党を雇うことではない。最悪の性質の戦争犯罪を免責しても欲しかったのです。手に入れば、アメリカ軍における細菌戦は飛躍的に向上する。丸秘の軍事的ですから、銀行強盗なんかでそれが暴露されては困るのです。

『映像』の「遙かな照射」という副題を思い出してください。私が、50年たった今から見ると、新しい資料を手に事実を《遙かに》照らしてみようという意図があるわけです。今の話もそうです。当時の清張さんは事実は知らなかったけ

れど、私が今言えるのと似たような状況は、すでに頭の中にピンと来ていたということなのですね。先見の明があったともいえるし、清張さんの直感力のすごさだとも思います。

### 精魂込めた「下山事件」

「小説帝銀事件」で、初めて清張さんは『裁判記録』を全部読んで分析した。なぜそのときから『裁判記録』を見るようになったのか、実は松川事件に原因がある。これは私の説です。

「日本の黒い霧」で清張さんが精魂込めたのは、「下山事件」です。そして、それを書くための動機はこの「帝銀事件」です。ですから、この2本をきちんと論じれば、清張さんの仕事をきちんと評価したことになる。「下山事件」では、「自殺説」か「他殺説」かに分けるのではなく、一つ一つ何が重要かを見極めることが大事だと思う。

早い話、私が重視するのは、遺書がないことです。下山という国鉄総裁が遺書を残さずに自殺した。これは何としてもおかしいと疑う常識が問題なんです。常識的に考えて下さい。偉い大臣ですよ、自殺するときは、面子もあるから遺書を書きますよ。清張さんは煙草吸いだから、休んだ旅館に煙草の吸い殻がないからおかしい、とそればかり言うんですね。（笑）清張さんの疑問でさらに大事なのは、裁判での告白、捜査では証言の真実性です。清張さんはテーマに真剣に取り組んだ人です。帝銀事件はノンフィクションがよいと考え、すぐに転換した。表現にもタブーを持たなかった。そして、視野はさらに広がったのです。

## 第III部

研究発表

### 『清張が現代文学に残したもの』

発表者

宇佐美 毅 氏（中央大学教授）

# 友の会 活動報告

## ●松岡正剛講演会

平成21年11月12日(木)  
記念館地階企画展示室

11月12日(木)、「松本清張事件にせまる」(1984年テレビ朝日系)で企画構成を担当した松岡正剛さんをお迎えして、映像鑑賞と講演会を行いました。

2本の作品を鑑賞した後、当時の撮影秘話や清張のエピソードなどをお話いただきました。清張と実際に仕事をされた方のお話を聞くことができ、大変有意義な講演でした。



まつおかせいごう  
松岡正剛

1944年、京都生まれ。編集工学研究所所長。1971年、工作舎を設立し総合雑誌「創」を創刊。

あらゆるジャンルを超越した独自のスタイルで、日本のアート・思想・メディア・デザインに多大な影響を与えた。

2000年より、書評サイト「千夜千冊」を発表。2006年に大型本「松岡正剛千夜千冊」として出版。

2009年10月23日より、丸善とのタイアップで、東京の丸の内本店内に独創的な書店「松丸本舗」をオープン。店内には清張の蔵書コーナーもあり、新しい試みとして話題になっている。

## ●友の会生誕祭

平成21年12月12日(土)  
記念館地階企画展示室前ホール

第6回目となる今年の生誕祭は、生誕100年記念のため記念館で開催された松本清張研究会の第21回研究発表会終了後、同会との共催で開催されました。

今村元市友の会会長の挨拶の後、北九州市ジュニアオーケストラのフルート八重奏が清張生誕100年を祝う曲を演奏し、会が始まりました。

藤井館長の生誕100年を祝う言葉の後、ケーキカットを行い、両会の会員のほか、多くの一般の方々とともに清張生誕100年を祝いました。



## 松本清張生誕100年記念事業

### 松本清張生誕祭

平成21年12月21日(月)  
記念館地階企画展示室前ホール

清張さんの100回目の誕生日に、誕生会を行い、多くの市民と一緒に祝いました。11時から先着300名にカットしたロールケーキのプレゼントや記念切手シートの特別販売などでにぎやかな誕生祭でした。



## 入館100万人達成

平成21年12月19日(土)、記念館の入館者が100万人に達しました。100万人目となったのは、韓国の大学教授で日本の近代文学を研究している熊本市在住の陸根和(ユック・クンファ)さんと、娘さんと来館されました。



平成 22 年度

中学生・高校生

# 読書感想文 コンクール



清張作品の読書感想文を、中学生・高校生を対象に募集します。

若年層に、より多くの作品に親んで欲しい、表現力を学び豊かな心を身に付けてもらいたいという願いから、このコンクールは始まりました。そして、これからの担う若者たちに、探求の人・松本清張の精神を伝えていくことができれば幸いです。

- 応募対象 全国の中学生・高校生
- 課題図書 中学生・高校生ともに下記から1作品
- 【特技】(『松本清張短編集 2 青のある断層』光文社文庫、同 カッパノベルス)
- 【点と線】(『長篇ミステリー傑作選 点と線』文春文庫※決定稿 など)
- 【遭難】(『黒い画集』新潮文庫、『松本清張映画化作品集 3 遭難』双葉文庫)

- 応募方法
- 中学生、高校生ともに1200～2000字程度の読書感想文を書き、応募用紙に添えて提出してください。
- 手書き、ワープロどちらでも結構です。ただし、全体の字数が分かるように応募用紙に1行の字数×行数を記入してください。
- 原稿は自作で未発表のものに限ります。なお、応募原稿はお返しいたしませんので、必要な人はコピーをおとりください。

- 応募締切 平成 22 年 10 月 31 日 (日) (※消印有効)
- 応募先 〒803-0813 福岡県北九州市小倉北区内2番3号  
松本清張記念館 感想文コンクール係  
※応募用紙は記念館公式HPからダウンロードできます。

- 選考 松本清張記念館内の選考委員会により選考します。
- 発表

審査結果は、12月下旬頃、本人と学校に通知します。  
最優秀賞、優秀賞の受賞者には、表彰式を行います。  
なお、入選の結果や受賞作品を記念館刊行物等に掲載することがあります。  
その場合、著作権は松本清張記念館に帰属します。

- 賞品 (受賞人数等、変更の場合もあります。)
- 最優秀賞(1人)《モンブラン》万年筆「マイスターシュテック No.149」
- 優秀賞(中学の部…1人)(高校の部…1人)文具など(未定)
- 佳作(中学の部…3人)(高校の部…3人)記念館グッズと図書カード

※なお、最優秀賞は中学の部、高校の部で各一回ずつの受賞と限らせていただきます。最優秀賞受賞後の応募も歓迎します。すでに受賞した人からの応募作品が賞に該当する場合は<特別賞>として「館報」掲載を予定しています。

- 主催 北九州市教育委員会
- 主管 北九州市立松本清張記念館
- 協力 モンブランジャパン



2009年

## 編集・発行 松本清張記念館

〒803-0813  
北九州市小倉北区内2番3号  
TEL 093 (582) 2761  
FAX 093 (562) 2303  
http://www.kid.ne.jp/seicho  
制作 (株)エディックス

- 開館時間 午前9:30～午後6:00 (入館は午後5:30まで)
- 休館日 年末(12月29日～12月31日)
- 観覧料 一般/500円(400円) 中・高生/300円(240円)  
小学生/200円(160円) ( )は30人以上の団体
- アクセス JR: 小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分  
小倉駅からは100円バスをご利用いただく便利です(小倉城・松本清張記念館前下車)  
車: 北九州市都市高速、大手町ランプより5分

## 映画 「ゼロの焦点」 フィルム缶贈呈

平成21年9月27日(日)、東宝映画「ゼロの焦点」でヒロイン板根禎子を演じた広末涼子さんが記念館を訪れ、北橋市長に映画完成を報告し、同映画が入ったフィルム缶を贈呈しました。

右の写真に写っているポスターには、広末さん、犬童一心監督と田沼久子を演じた木村多江さんのサインがあります。



## 2009年度・ドラマ化された清張作品

2009.4.11 (土)	「駅路」	フジテレビ
2009.4.23 (木)～6.18 (木)	「夜光の階段」	テレビ朝日
2009.12.14 (月)	「中央流沙」	TBS
2009.12.21 (月)	「火と汐」	TBS
2009.12.29 (火)	「顔」	NHK
2010.1.29 (金)	「山峡の章」	フジテレビ
2010.3.16 (火)	「霧の旗」	日本テレビ
2010.3.23 (火)	「書道教授」	日本テレビ

## 編集後記

昨年末、生誕100年の記念すべき年に100万人目の入館者を迎えました。平成10年8月の開館から数えて11年、毎年約9万人の方が訪れ、松本清張の世界に触れ、創作の源を感じておられました。今後もいろいろな企画を計画し、多数の方のご来館をお待ちいたしますので、ご期待ください。  
(西本 衛)

